



翔舞

令和7年3月11日 第18号

文責：校長（田中）

学校公式ブログは
右のQRコードから



第78回卒業生 月中を巣立つ

令和7年3月7日（金）、たくさんのご来賓と保護者の皆様からご臨席いただき、第78回卒業証書授与式を行いました。厳粛の中にもあたたかな雰囲気があふれる式となりました。最後の学活を終えた卒業生たちは、在校生や保護者の方からのあたたかな拍手に見送られながら、学び舎を巣立っていきました。卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。月瀉中学校で学んだことや経験したことを自信とし、豊かな人生を創りあげていってください。これからも応援しています。

今回の学校だよりは、校長式辞、在校生送辞、卒業生答辞を掲載します。スペースの都合により、一部を抜粋しての掲載となりますことをご了承ください。

校長式辞

校長 田中 良成

三年前、皆さんはコロナ禍の中で入学式を迎え、困難を乗り越えてきました。進級するごとに活躍の場を増やし、とても頼りがいのある、あたたかな学年に成長しました。特に、最高学年になってからの皆さんは、月瀉中学校の「顔」として積極的に学校を引っ張り、地域を盛り上げてくれました。全校のリーダーとして様々な課題と向き合い、仲間と試行錯誤しながらつくりあげた生徒が主役の体育祭。義務教育の最高学年としてあるべき姿やクラスのまとまりを、後輩たちや小学生に示してくれた月輝祭・音楽発表会。月瀉中学校が大切にしてきた「当たり前の姿」を守り、全校生徒一人一人の頑張りに光を当てようとした躍進会の活動など、皆さんが取り組んできたことは、月瀉中学校の歴史に確かな足跡を残すものばかりでした。皆さんの姿を追いかけてきた一・二年生たちも、着実に成長しています。私は皆さんのことをとても誇りに思うとともに、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

次のページへ続く

皆さんは、いよいよ、自分の選んだ道に向け、旅立つ時を迎えます。そこで、私が大切にしている二つの言葉を「はなむけの言葉」として贈ります。

一つ目は、元メジャーリーガーの松井秀喜さんが、座右の銘として大切にしている言葉です。

心が変われば 行動が変わる。
行動が変われば 習慣が変わる。
習慣が変われば 人格が変わる。
人格が変われば 運命が変わる。



心や気持ちの持ち方は、人間の行動に現われ、その行動を繰り返すことによってその人の習慣となり、良い習慣を身につけると自分の性格や人格、そして将来までも変えることができるということを示している言葉です。皆さんはすでに誠実で前向きな心を持ち、何事にも全力で行動し、それを当たり前のように継続できる人たちです。これからもそうした心・行動・習慣を忘れず、明るい未来をたぐり寄せてください。一方、これから皆さんが生きていく時代は、「今まで通り」が通用しない、予測困難な時代とされています。自分の思い通りにいかない時や、壁にぶつかって心が折れそうになる時もあると思います。そのような時にも、先ほどの言葉を思い出してください。つらい時に心の持ち方をプラスに変えることができれば、その先の運命もプラスの方向に変えることができることを、先ほどの言葉は示しています。どんな時も自分を信じ、前向きな心を忘れず、たくましく道を切り開いていってください。



二つ目の言葉は、「出会いこそ人生の宝さがし」という、昔のある曲の歌詞の一部です。皆さんにはこれからたくさんの新しい出会いが待っています。ぜひ、様々な考えの人と出会い、視野を広げてください。そして、皆さんを一段階成長させてくれる、人生の宝物となる人と巡り合ってください。もちろん、月潟の仲間たちも大切にしてください。はじめて会った日から今日まで、同じ時、同じ空の下で一緒に学び合い、喜び合い、涙し合いながら過ごしてきたここにいる仲間たちは、皆さんがすでに見つけた人生の宝物です。本当に困ったときに心から助けてくれる心のよりどころです。ずっとずっとずっと忘れず、いつまでも大切にしてください。

結びに、二十六名の卒業生が、月潟中学校で学んだこと、経験したことを自信とし、豊かな人生を創りあげていくことを心から願い、式辞といたします。



在校生代表送辞

本日、晴れて月潟中学校を巣立つ二十六名の皆さん、御卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお祝い申し上げます。今、先輩方との思い出を振り返ると、いつも先輩方は魅力的な姿を見せ、支えてくださいました。



体育祭では、練習の時も軍関係なく、互いに話したり、共に笑い合っている仲良く活動していました。ですが、時にはライバルとして絶対負けないぞ！と自分たちの軍の士気を上げていました。体育祭本番、茹だるような暑さに包まれました。リレーなどでは追いつかれないように一生懸命走っていました。そんな中でも刺激し合い、高め合っていく姿はとても素敵でした。ダンスでは、自軍だけではなく相手軍も鼓舞していました。グラウンドが白熱しました。全員が本気になった体育祭でした。結果は引き分けとなり、両軍悔しい想いをしました。ですがお互い最後まで本気を出して挑めたからこそ引き分けなのではないでしょうか。閉会式では、団長が涙ながらに「ついてきてくれてありがとう！」とおっしゃり、団長の仕事も大変だったのに、団員のことも考えてくださっていたことに感動しました。私はここまで全力で体育祭を頑張り、楽しめたのは、三年生の頑張っている背中があったからだと思います。私たちもそんな仲が良く、お互いを信頼しあっている三年生の背中を追いかけ、最後まで全力で頑張り、楽しめるような行事や学校を作り上げたいと思いました。

吹奏楽部では入ってきてまもない私たちが一番近くで支えてくれたのは先輩方です。どんなに辛くとも先輩方の明るさや真面目な姿に支えられ、いつも頑張ることができました。10月になり、部活が新体制になった時も、不安だった後輩の私たちを気にかけてくださり、また、私たちを支えてくださいました。さらに、私たちに部活の楽しさや、みんなで協力することを教えてくださいました。部活の大会で悔しかった時、今までしたことは無駄ではないと言ってくださいました。一生懸命頑張り、良いものを作り上げていく時間はとても楽しかったです。そして、今でも部活を楽しく、目標をみんなで追いかけて過ごせるのは、あの時教えてくださったこと、かけてくださった言葉が私たちを支えているからです。私達はまだまだ未熟ですが、先輩方から教わったことや見せてくださった姿を、教えていけるよう、頑張りたいです。



最後に、私は明るく真面目でお互いを信頼し合う先輩方に憧れを抱いています。いつも私たち後輩をリードした先輩方が御卒業し、四月になったら、二年生は三年生、一年生は二年生とそれぞれ先輩となります。私は正直、先輩方のような三年生になれるか不安です。ですが、教えてくださったこと、言ってくださったこと、見せてくださったこと、それらを糧にして、前に進もうと思います。いよいよお別れの時がまいりました。先輩方のご健康と益々のご活躍を心からお祈りし、送辞とさせていただきます。



卒業生代表答辞

真新しい制服に身を包み、月潟中学校に入学したあの日から三年が経ちました。一年生の時は分からない事がたくさんありましたが、先輩方から優しく教えていただき先輩方を見て必死についていきました。二年生では初めての後輩ができ、責任感をもって行動するようになりました。部活動では一年生にも気を配り、先輩と後輩が一つの目標に向かって努力する楽しさを学びました。三年生になると最高学年として学校行事を引っ張る存在にもなりました。三年生の出来事の中で強く印象に残っているのは体育祭です。活動する中で気持ちが一つになっていない、時間が足りないなど困難を感じる時もありましたが、話し合いを行ったり、家での時間を活用したりするなど様々な工夫を行いました。当日は勝敗以上に強い絆が生まれ、円陣を組む様子や相手の軍へエールを送る様子も見られました。みんなで盛り上がろうとする姿は月潟中学校だからこそ見られる魅力だと思います。最後の体育祭は一番達成感を感じられた最高の体育祭だったと胸を張って言えます。



また、私達が充実した学校生活を送る事ができたのは先生方の励ましや支えがあったからだと思います。優しく時には厳しくご指導していただき、心身ともに成長することができました。担任の山倉裕子先生には特に感謝をしています。困っている時はいつも優しく声をかけていただきました。さらに、行事が近づくと私達を熱い言葉で鼓舞してくださいました。私は体育祭前の裕子先生の言葉が強く心に残っています。体育祭に対してどこかまだ本気になれていない私達に

「本気で活動しているのか、その状態で後輩達はついてくるのか」と問い、大事な事に気づかせてくださいました。裕子先生の言葉を聞いてから三年生全員の目が変わったように見えました。裕子先生の言葉がなければ、最後の体育祭は後悔が残っていたと思います。裕子先生がいてくださったからこそ今の私達があります。本当にありがとうございました。



さらに、在校生の皆さんにも感謝をしています。行事に積極的に参加し、生徒会活動を盛り上げてくれました。どんな物事にも全力で取り組める皆さんを尊敬しています。いつも明るく面白い皆さんから毎日元気をもらい、最高の思い出を作ることができました。皆さんなら今後の月中は明るいと感じています。

今日まで三年生の仲間達と充実した日々を過ごし、泣いたり笑ったり時には喧嘩もしてきました。三年生と過ごした毎日が大切な宝物です。明日からは今までの日々がなくなってしまうことが信じられず、寂しい気持ちでいっぱいです。授業中に面白い事を言って笑ったり、昼休みにみんなと楽しく遊んだりした時間がもっと続いてほしいです。そして三年生や在校生の皆さん、先生方ともっと一緒にいたかったです。私達は次の道へと進みます。もしかするとこの先、多くの試練が私達を待ち受けているかもしれません。その時は皆さんとの日々を思い出し、自分自身を信じて胸を張って前に進みます。

最後になりましたが、いつもそばで私達のことを支えてくれた家族、たくさんの応援をくださった地域の皆様、本当にありがとうございました。月潟中学校の益々の発展と皆さんの健康をお祈りし、答辞といたします。